

公益社団法人 私立大学情報教育協会

経営学・経済学・会計学・心理学・数学・機械工学・経営工学 建築学・
電気通信工学・土木工学・物理学・化学・生物学・被服学・
美術デザイン学グループ

分野連携アクティブ・ラーニング対話集会 開催要項 オンライン開催

1. 開催趣旨

新型コロナウイルスの感染が弱まりこそすれ蔓延が続く中において、大学では対面授業と遠隔授業の長所を組み合わせたハイブリッドな授業がニューノーマルな教育として受け止められつつあります。

学びのデジタル変革は、対面による物理的空間の学びと、時間・場所を越えた遠隔・オンラインによる仮想空間の学びを組み合わせることにより、多様な「知」や「体験」との融合を可能にする学びの高度化と、学修者個々の可能性を伸長する学修者本位による教育への転換を加速する点で、必須の教育のパラダイムシフトと考えます。デジタル技術の導入が目的ではなく、それを手段として活用し、学生が生涯に亘り主体的に問題発見・解決に関与し、価値創造につないでいくなど、社会貢献の幸せを享受できるように支援していくことが教育のデジタルトランスフォーメーション(DX)ではないかと考えます。

そのような観点から本対話集会では、ポストコロナ社会で質の向上を目指す新たな学びの創出として、思考・判断の考える力を訓練するハイブリッドな授業を如何にデザインし、学生に最適な学びを提供することができるかを探求し、改革行動につなげていく場としました。

2. 対話集会のねらい

ポストコロナ社会におけるアクティブ・ラーニングの新しい学びの創出及び推進普及を目指すため、次の観点を意見交流します。

- ① 地域の社会課題や SDGsなどをテーマに、学修者の可能性を伸長する教育への転換、遠隔と対面を効果的に組み合わせた問題発見・課題解決型教育(PBL)の工夫と課題、戦略を研究します。
- ② ネット上で多分野の知識を組み合わせ、知の創造を訓練する授業モデルの可能性を研究します。
- ③ 対面と遠隔の複合形態による学修プラットフォームに必要な機能と課題について整理します。
- ④ クラウドを活用したビデオ試問による思考力等の点検・評価・助言モデル構想のニーズを確認し、学生に点検評価の結果をフィードバックする仕組みの実現可能性について研究します。

3. プログラム

(1) 開催趣旨の説明

(2) アクティブ・ラーニングの話題提供

① 会計分野

「遠隔で現場情報を集め、会計的視点から課題発見・解決策を考察する PBL モデルの提案」

正解がないことを周知した上で、事前に企業等活動状況の映像を閲覧させます。その上で遠隔でグループごとに問題の認識、課題の発見と設定、合理的な解決策を議論させ、その結果を掲示板に発表させてグループ間で評価し、振り返りを行う PBL モデルの提案を紹介します。

名古屋学院大学名誉教授 岸田 賢次 氏

② 経営工学分野

「対面と遠隔でグループワークの質向上を実現した PBL 授業の取り組み」

プロジェクトマネジメントの授業で知識の獲得は遠隔、企画・立案の実践は対面を中心としたグループワークとしていますが、対面は緊張感などの連続で疲れやすいとの声があり、キックオフ、成果発表以外は、双方向のビデオ会議が効果的であることの事例を報告します。

千葉工業大学システム科学部准教授 田隈 広紀 氏

③ 建築学分野

「ICTを活用した反転授業のオンライン化に伴う運営・評価・課題の取組み」

建築材料、鉄筋コンクリート構造授業の反転授業について、オンラインでグループワークの議論・発表を行い、グループ及び全体での意見発表も対面と遜色なく実施した。期末試験を視聴動画のノート作成に代替した授業の運営方法、学修成果の評価方法および課題について報告します。

摂南大学理工学部長 柳沢 学 氏

④ 機械工学分野

「PBL授業におけるハイブリッド型授業の実践の取組み」

チームで課題に取り組む「プロジェクトデザイン入門」のPBL型授業をハイブリッド型で運営した。実験の様子をビデオで見せた上で、更にリアルタイムで模擬実験を行い、理解を深めている遠隔PBL型授業の工夫と課題について報告します。

金沢工業大学准教授 藤本 雅則 氏

⑤ 土木工学分野

「『持続可能な社会づくりに参画するための実践力(SD)』育成に重点を置いた全学PBLのねらいと、遠隔による授業方法の取組み」

東京都市大学で2020年度から1年次から3年次に実施しているSD PBL全学導入の経緯と、構造的専門知識を持たない1年次の学生に、橋梁形状の議論をさせるため、遠隔でグループワークさせるための工夫により得られた教育効果や課題を報告します。

東京都市大学建築都市デザイン学部准教授 五艘 隆志 氏

(3) 意見交流

- ① 学修者本位の教育への転換、遠隔と対面を効果的に組み合わせたPBLの工夫と課題及び戦略
- ② ネット上で多分野の知識を組み合わせ、知の創造を訓練する実験授業モデルの可能性
- ③ 対面と遠隔を組み合わせたプラットフォーム作りと課題の整理
- ④ ビデオ試問による思考力等の点検・評価・助言モデル構想の具体的なイメージ確認と課題

4. **参加対象者**：国・公・私立大学の教員、職員、授業補助学生(TA・SA)など

5. **開催日時**：令和3年12月25日(土) 13:00~17:00

6. **会場**：オンラインによるテレビ会議室 (Zoom使用) とします。なお、申込者には、テレビ会議室専用のURLを12月20日(月)に申込書のアドレスにメールで通知します。

7. **定員**：200名 (先着順で受け付けます)

8. **参加費**：無料

9. 資料の配信

準備ができ次第、資料を以下のページに掲載します。

<https://www.juce.jp/LINK/senmon/active/>

10. 参加申込

別紙申込書に必要事項とアンケートを記入の上、FAX又はメール添付にて**12月17日(金)**までに申し込み下さい。申込締め切り後でも受け付けることがありますので、事務局に問い合わせ下さい。

メール送信先：info@juce.jp FAX送信先：03-3261-5473 TEL：03-3261-2798

11. その他

12月25日(土)終了後、参加者には12月28日(火)から30日(木)の3日間、対話集会の開始から終了までの録画を閲覧できるようにします。また、意見交換による課題等の整理は後日、改めて文章で本協会のWebサイトに掲載する予定にしています。